

# 長野県高等学校入学者選抜制度等検討委員会

## 第4回 資料

	ページ
I 第3回委員会のまとめ	1
II 「長野県高等学校入学者選抜制度等検討委員会」 討議の論点	
1 入学者選抜の理念	8
2 入学者選抜の方法	
(1) 選抜の種類	9
(2) 学力検査やその他の検査を課す対象者	10
(3) 生徒のもつ多様な能力の評価	11
(4) 多様な能力の評価基準	12
3 入学者選抜の実施時期・実施期間、受検機会の複数化	13
4 学力検査問題の内容	14
5 選抜業務	15
6 通学区制	16

## 第3回委員会のまとめ

### 1 第2回委員会のまとめ（報告）

#### (1) 第1回委員会のまとめ

【資料1】長野県 公立・私立高等学校入学者選抜の倍率・進学率の推移  
平成16年度から22年度の同様のデータを追加、私学の充足率の上昇

#### (2) 高大接続改革や学習指導要領の改訂の概要

- ① 高大接続システム改革会議「最終報告」【概要】
- ② 高大接続改革の実施方針等の策定
- ③ 学習指導要領等の改善及び必要な方策等について

#### (3) 現行制度の評価と課題の再検討について ～ 選抜制度等に関する課題・意見等

- ① 前期選抜に係る課題・意見  
○可否の判定基準、ある程度の不合格者数、中学三年生の指導、学力伸長、選抜事務の負担、受検生の志願状況、受検機会
- ② 前期・後期選抜に係る課題・意見  
○「学びの改革 基本構想」、入学者選抜制度の見直しに関する国の動き

#### (4) 他県での選抜制度の改革状況について

○通学区、選抜日程、全体的な動き(1～2月の選抜廃止:8県、H28末審議会等報告:3県)

【資料2-1】宮城県「今後の県立高等学校入学者選抜の在り方について」 [別冊]

【資料2-2】福島県「高等学校入学者選抜制度の在り方に関する報告書」 [別冊]

【資料2-3】佐賀県「佐賀県立高等学校入学者選抜制度の在り方について」 [別冊]

・入学者選抜制度の変遷 ・現行制度の課題の整理 ・改善の方向性、具体策

【資料3】1・2月の入学者選抜を廃止した都道府県の状況

・前期選抜の実施期間(年数)

#### (5) 長野県における入学者選抜制度と通学区制の今後の方向性について

- 入学者選抜でどういう学力、どういう側面をみるか、長野県のこれからを担う人材として必要なものだからこの側面を見る、という論理が重要
- 受検機会の均等性、学区制をどうしていくか
- 選抜業務に携わること、実現可能なものとする必要性がある
- 出された課題の優先順位を明らかにして今後の会議の中で課題にしていく

### 2 長野県における入学者選抜制度と通学区制の今後の方向性 ～ 課題の整理

#### (1) 入学者選抜の理念について

- ・「学力の三要素」をバランスよく育て、入学者選抜でどのように適切に評価するか
- ・「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の部分バランスよく評価できる問題が望ましい学力検査問題
- ・異なる情報をもとに課題解決する情報処理能力をどう伸ばし、入試でどう評価するか
- ・入学者選抜なので全人格、全学力を見るのには限界がある。長野県のこれからを担う人材として必要なものだからこの側面を見る、という論理が重要
- ・家庭や地域、委員の皆様から見て望ましい制度。課題の優先順位が今後の会議での課題

#### (2) 選抜の実施時期・実施期間について

- ・選抜業務が長期に渡り、中高の現場での負担感が大きい
- ・前期選抜合格者と後期選抜受検者が混在することで指導上の困難さがある
- ・高3生への大学入試前期の指導を十分にするため、選抜事務の負担への考慮が必要
- ・前期合格者は緊張感がなくなり、3年生の指導、学力の伸長に関して困難さや課題がある
- ・選抜業務にどう取り組むか。理想ばかりでなく実現可能なものとする必要性がある

### (3) 選抜方法について

#### ①前期選抜

- ・合否の判定基準が曖昧、合否判定への納得が得にくいとの声を受け、募集の観点の明確化や評価方法の具体化・明確化を進めてきている
- ・全体の3割強の前期選抜入学生の学力実態把握の問題と学力低下の懸念がある
- ・志願理由書など提出書類が多く作成に多くの労力を要す
- ・前期で第一志望不合格の場合、学力面の準備不足だと後期選抜の志願先に大きく影響
- ・学力検査のない前期選抜で生徒の個性を多面的に評価することに対し、評価の客観性や妥当性を問題にする見方もある
- ・新学習指導要領で重視される協働的な学びや学びに向かう意欲などが、募集の観点にどのように反映されるかが重要
- ・前期選抜での入学者が学力の伸び悩みやついていくのに大変という声もあり、前期選抜に学力検査的なものがあればギャップを感じないのではないかと

#### ②後期選抜

- ・前期及び後期選抜に関して高校の先生方の忙しさが心配。新しい大学入試に対応しなければいけない上に、後期の問題は良問だが現場の先生方の仕事量はとても大変
- ・点数的に厳しい生徒も高校で学びたいという意欲、願いがあるので、基礎力を確認する問題を増やすなど、様々な生徒の願いが実現する制度を考える必要がある

### (4) 前期選抜を実施しない学校があることについて

- ・受検のチャンスが減り、不合格を恐れ自由な志願がしにくくなる
- ・安全志向や早い段階で進学先を決めたいという心理により、前期選抜を実施する公立高校や私立高校、県外高校に進学する者あるいは私立高校との併願者が増加
- ・私立高校への進学率上昇は、前期実施校が減ったことにより生徒の安全志向の受け皿として私立に流れているのではないかと
- ・倍率の高い28校の普通科が前期選抜を廃止したことが大きなターニングポイント。現場の負担は減ったが、公立の受験チャンスが1回だけになり、私立との併願が増えたり、他県に出たりということにつながっている
- ・前期選抜導入の意味は、受検機会の複数化と様々な尺度で中学生の持っているものを測ることができるということ。様々な選び取る機会を与えるという観点からすると、28校の普通科では前期選抜を止めたことによりその両方が失われた
- ・前期受検者は早く決めたいという深層心理はあるかもしれないが、中学校側としては、本当に行きたいところを考えることを大事にして進路指導をしている

### (5) 通学区制について

- ・通学区制廃止は、メリットとして受検機会の公平性の担保、デメリットとして交通の便の差により志願者数の増減にかなりの差がでてくる懸念があるが、方向性は出す必要あり
- ・旧12通学区から4通学区になったことにより、力のある生徒にとっては選択肢が広がったが、よりハードルが上がる生徒がいる側面があるという課題を感じている
- ・受検機会の均等性をどう図っていくか。学区制を一元化するのか、現状のものを規制緩和するか、弊害が多いので、ある程度の縛りを設けるのか

### (6) その他

- ・志望校の判断基準は、進路希望の実現が基本だが、通いやすさや早く合格し安心したい、ということが感じられる
- ・応用・活用的な問題が増え、基礎のみ学習する子ども、応用まで学習する子ども、というように小中高の子ども達と先生達の学力に対する考え方が分かれなことが重要
- ・論述問題の大学入試への導入により、そのためだけに勉強するのではなく、小学校から文章を書く、表現するのが大事だという考えを小中の先生が持つ必要がある
- ・私立高校入学者が募集定員を上回っている通学区がある。これは、公立私立を併願して公立に入れなかった生徒の多くが私立に入学する傾向があるのだと思う

### 3 課題解決のための改善方法等に関する具体策について ～ 今後の討議の論点

#### (1) 選抜の実施時期・実施期間

#### (2) 選抜方法

- ①前期選抜（自己推薦型選抜） ・ 検査対象 ・ 検査内容 ・ 実施校 ・ 募集人員
- ②後期選抜（一般選抜） ・ 検査対象 ・ 学力検査問題の内容

#### (3) 通学区制

#### (4) 選抜業務

### 4 各委員さんからの意見等

#### (1) 第2回委員会のまとめについて

##### 【木下委員】

- ・ 前回の意見で不十分だった部分の補足。
  - ①私立高校で定員を上回った地区があるが、このことは公立高校の募集定員設定に課題があり、適正化の必要性がある。
  - ②前回資料9ページの「遠くの公立高校より近くの私立高校を選択」に関し、中学校現場の実感とは少し離れている。県内ではまだまだ公立志向が強い。
  - ③平成29年度の学力検査問題に関し、良問ということでもとまったが、要望や課題も多いのではないか。例えば社会の最後の問題に関しては、社会保障と国民負担に関するものだが、限定的・誘導的な設問ではないか。問題の適切性を考えて作成してほしい。

##### 【吉田委員】

- ・ 学力検査問題に関して難しすぎて手が付けられない生徒がたくさんいる。前回資料10～11ページの現場の意見だが、良問というよりも記述が難しく時間を割かれた。良問という認識はレベルの高い高校ではそうかもしれないが、全体の認識ではない。
- ・ 採点については現場の対応は大変。学校ごとに基準を決められれば簡単だが、県の統一基準であるため、ミスを許されない緊張感がある。記述が多くなればなるほど大変、開示請求に耐えられるように。現場としては良い方向とはとらえていない職員多い。
- ・ 基礎力を確認する問題を増やす方向でお願いしたい。

#### (2) 長野県における入学者選抜制度と通学区制の今後の方向性 ～ 課題の整理・共通認識

##### 【木下委員】

- ・ 理念に関わり、高大接続を意識して変えるべきものか。小中学校からは大きく変更を求める声は上がっていない。現場の声を十分に聴いて改善して欲しい。
- ・ 学力の三要素に関しては、ぜひ基本的な内容を問う問題にしてほしい。
- ・ 「今後の討議の論点」に「理念」を入れて欲しい。

##### 【清水委員】

- ・ 委員会のミッションは入試制度の在り方を出すこと。「学びの改革 基本構想」の13ページにある理念が大前提であり基本骨格。
- ・ 「今後の討議の論点」に「理念」も加えるべき。理念の根拠を示さないといけない。

##### 【土井委員】

- ・ 誰のためにやるのか。長野県のこれからの担う人間に必要なもの。論点の「1 選抜の実施時期・実施期間」と「2 選抜方法」は同時に考えるべき。

##### 【赤羽委員】

- ・ 論点の「1 選抜の実施時期・実施期間」と「2 選抜方法」は行ったり来たりするので、一緒に討議するべき。

##### 【木下委員】

- ・ 前回の委員長の発言に「人材」とあるが抵抗感がある。人格の完成が教育の目的であるので、配慮して欲しい。

##### 【藤森委員長】

- ・ どういう人間を育てたいか、どういう自己実現を長野県として考えていくか、と訂正する。

### (3) 課題解決のための改善方法等に関する具体策について ～ 今後の討議の論点

#### 【藤森委員長】

- ・「1 選抜の実施時期・実施期間」と「2 選抜方法」取り混ぜて議論していければと思う。そこには、理念の問題も絡んでくると思うので忌憚のない意見を。

#### 【内堀委員】

- ・公立高校の前期選抜導入の理念は、生徒の多様な面を評価することと受検機会の複数化。中学生が公立に複数チャレンジできるとともに、中学校までにやってきたこと、身に付けてきたことを評価してもらえるということ。実施時期についてはこれからの論議で。
- ・平成23年度に28校が取りやめた原因は、ペーパーテストで測れる学力と中学の9教科の評価で判断するという、2回同じようなことをやっていたから。今後の改善についても同様な観点は必要。
- ・前期選抜は、多様な力や要素を評価できる機会、早く決まることによるモチベーション、学力検査を受けないことにより一番伸びる大事な時期に学ばない、などのメリット・デメリットがあるので、時期についてはまだわからないが、機会（2回）と多様な尺度（2種類）を担保する必要性。
- ・特色化に関しては、大学の3つのポリシーに準じた、各高校のポリシー、すなわち、こういう子に入って欲しい、こういう力を付けて欲しい、という点を各校で出す必要性がある。

#### 【土井委員】

- ・前期の良さと後期の良さを融合し、負担を少なく。期日は一本化の方向で。どちらにもエントリー可能。募集枠は限定しない方が良い。
- ・学力差は3年間の取組み。
- ・特色化という面では、学力検査を250点にし、小論文の比率を高めるなどの方法も。
- ・現状の前期選抜への取組は中学校の担任により大きな差があり、不公平。

#### 【清水委員】

- ・ものさしを2本にするか1本にするか、実質的に分けてやるか一体化にするかといったノウハウに関しては別に考えたい。
- ・ペーパーテストで測れる学力と、個性の多面性・多様性を評価するという2種類の仕組みを用意することが、共通で理解できている論点かと思う。
- ・公正で公平な選抜制度で、受検者が正しい手続きで、きちんと不平等なく入学できることが大前提で、大事である。
- ・いろいろなところで優れているものを評価するためには複数のものさしが必要。

#### 【藤森委員長】

- ・時期を2段階にするか1回にするか、という選択肢と、多様性を見るという形で一律に測定すべき要素と、個々別々に見ていく要素を盛り込むか、それともある意味割り切って、入試というのは制度なので、この部分だけを特化してみる、というのも一つだと思う。

#### 【芳原委員】

- ・チャンスは複数あって欲しい。人生初めての進路選択であるので、2つのチャンス、いろいろな眼で見るということが大事だと思う。

#### 【吉田委員】

- ・2回のチャンスが大事。専門校で前期で意欲高い生徒を取りたいという学校では、もっととりたいたいと思う学校もある。専門校では、現状のままで良い、あるいは前期選抜に関しては現状を改善するという程度で良いと考えているところもある。

#### 【土井委員】

- ・前期選抜でもっと取りたいと思っている学校においては、具体的に何が前期選抜で入った生徒たちが良いと思っているのか。

#### 【宮本教育幹】

- ・第1回資料の前期選抜のアンケートにある内容に、いくつか評価できる点が載っている。

**【内堀委員】**

- ・農工商家福などの専門学科では、興味関心が強く、入ってからもこういうことをやりたいということがはっきりしているから、もっと多くとりたいという気持ちがある。

**【赤羽委員】**

- ・実施時期については別として、複数の機会を。学力検査のみではなく、意欲を見る場が必要。テストでは伸び悩むが、意欲強い生徒の場合は、高校が求めるものと合致している場合は前期を勧める。
- ・中学校として期待する子が落ちてしまうこともあるので、合否基準があいまいな部分もある。点数ではない力を評価する難しさかと思っている。

**【木下委員】**

- ・コツコツと真面目な生徒は前期で合格して欲しい。中学側で魅力認めてもらえるだろうという子が不合格になることもあり、その逆もある。より一層適切な評価できる仕組みがあると良い。

**【藤森委員長】**

- ・学力検査以外でそういった面を見るアイデアとして何かあるか。

**【木下委員】**

- ・面接は緊張したり、その子の良さが伝わらない部分もあるので、厳しいのではないか。

**【土井委員】**

- ・内申点 45 点では学力を測れないと思う。評定「3」の範囲が広い。学力検査に代わるものはちょっと思いつかない。

**【黒岩委員】**

- ・後期選抜でも面接を設けている学校も。どこの学校でも柔軟に取り入れると、学力以外の要素も測れる。集団面接も良いのではないか。現場の先生にとっては中高ともに大変なので、一回の中で面接もあり学力検査もあるという中で、多様性もみる方向も一つなのか。

**【芳原委員】**

- ・面接の時間は各学校でどのくらいか。10 分程度では短いのではないか。

**【塩野課長】**

- ・各学校の状況により異なる。15～20 分程度か。

**【藤森委員長】**

- ・面接は公平公正が必要。基準をしっかりとしなければいけない。大学では供述審査も実施している。面接では人物のみを見ているのか。思考力・判断力・表現力の側面について、ペーパーで測れない側面は面接で見ることができるのではないか。どういう姿勢で面接を行うのか、いくつかのアイデアを示せたら良い。

**【土井委員】**

- ・前期選抜の面接について、攻略の手の内を披露。中学校 3 年間で何をしたいか、高校 3 年間で何をしたいか、高校卒業後何をしたいか。これさえしっかりしていれば前期の面接はちよろい。だから、そんなことで測ってはだめ。本当にその子が判る内容のものが作れたら良い。

**【清水委員】**

- ・学校別実施内容の募集の観点は大学でいうところのアドミッションポリシーに相当。面接の内容が一般論ではまずい。コミュニケーション能力や表現力など、人の気持ちをつかむ力など、質的評価が重要。募集の観点に対する県としての共通の理念があり、それを基に各校が特色化すべきでは。

**【塩野課長】**

- ・分かりやすいアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーが必要。各学校の公立高校としての特色化、独立性が今後重要。わかりやすいアドミッション・ポリシーを今後作っていくことが重要。

【土井委員】

- ・学力の三要素を表現させる面接、グループディスカッションということになると、小中はそれを育む以前の教育が重要ではないか。基礎学力の部分が重要ではないか。プレゼン能力などは高校、大学で身に付ける要素ではないか。

【藤森委員長】

- ・三要素や多様性を尊重すること、いろいろな形態の選抜を。
- ・県の選抜の在り方に対する理念があって、各校の理念となるのでは。
- ・前期後期どうするかということに対する考えはどうか。

【内堀委員】

- ・受検機会の複数化を担保 → 前期・後期。メリットは2回、しかし学力面の担保は？
- ・一回で多様化と同時に実施 → 複数の機会という認識ない。
- ・2回 → 負担
- ・メリット、デメリットの落としどころをどこにするかが今後の議論になるのでは。

【清水委員】

- ・ペーパーテストを共通にしては。全国学テのように全体で実施しているテストはないのか。

【教学指導課長】

- ・全体ではない。

【吉田委員】

- ・特色学科は前期の比率9割。後期は普通科がバックにあるので、複数の機会に。
- ・進学校での面接はいかがなものか。自己PRを辞める学校もあると聞いている。面接が多くなると、塾に行く生徒も増えるのでは。面接で立て板に水のごとく対応できる生徒もいれば、寡黙で緊張してしまって本来の力を出せない生徒もいるので、そののところが上手に評価できるようにしないといけない。それよりは、基礎学力を見ることが重要である。

【木下委員】

- ・募集の観点について、高校としては大事にしたいことが似通ってくるので、募集の観点に特色を打ち出していくことは難しいのではないか。

【内堀委員】

- ・7月末に今後の大学入試に関して、調査書の内容の変更の方向性が示された。高校の入学選抜の調査書はどうするのか。議論から外れていないか。一定の中学校時代にやっていたことを見ることができるといえることになれば、主体的に学びに向かう態度だとか、面接で聞ききれない部分だとか、ある程度判断できるのではないか。
- ・現時点では志願理由書を基に面接することになっているが、今後は調査書も含めて面接できるようにするのか、あるいはそれ自体を評価の対象にするのか。

【土井委員】

- ・前期、後期となる前と比較して、内申書の作り方は変わっていないのではないか。

【藤森委員長】

- ・調査書の内容は変わっているか。絶対評価か相対評価か。

【教学指導課長】

- ・学習指導要領の改訂に連動して変わっている。評価は絶対評価。

【藤森委員長】

- ・3の通学区制を視野に入れてご意見を伺えれば。

【吉田委員】

- ・新聞報道では通学区制についてしか論議していないような受け止めもあったようである。高校現場では通学区制の一本化には反対。苦勞するのは、距離、定期代の負担が増す遠くの学校に通わなければならない生徒。現状のままで良い、というのが現場の思い。

【黒岩委員】

- ・どの子にも学びのチャンスを与えてもらいたい。応用力（進学校）は全国学テのB問題のような問題を選択、基礎学力を見たい学校はA問題を、高校側で選択しては。
- ・学力検査に加えて、冒頭に自己PR文を書かせてみては。

**【藤森委員長】**

- ・ 1日で終わらずに、時間をかけて選抜の中でいろいろな面を評価するというように、拡充する視点もあるのではないかと。

**【内堀委員】**

- ・ 学力検査問題に関する感想だが、新しい制度設計に関して、従来の知識・技能にウェイトがあったものを、それだけでなく、思考力・判断力・表現力や学びの姿勢などを学力の要素として位置付けていく方向になっているが、義務関係では基礎的な知識・技能がいらなくて思考力・判断力・表現力ばかりに偏っているように受け取られているようである。もちろん、本当に基礎的な問題から、時間をかけて考えるような問題まで網羅されている問題が理想的である。私はある程度そうなっていると理解しているが、そうでないという印象を受けているならば説明不足か、実際にそうでないのか、再検証が必要である

**5 次回の論点**

- (1) 多様化に対応できる多様度のある問題を提供できる選抜制度が望ましいのではないかと
- (2) 通学区の問題
- (3) 高校が個性化すればするほど行きたいけど学校が違うので行けないという課題
- (4) 選抜日程、前期後期をどうするか
- (5) 理念に基づき、どういう部分を子供たちに求め、人格育成に寄与する入試制度になって欲しいかと



## 討 議 の 論 点

高校教育課

### 1 入学者選抜の理念

#### 【理念に係る意見等】

- ・「学びの改革 基本構想」にある理念が基本
- ・長野県のこれからの担う人間に必要なもの、どういう人間を育てたいか、長野県としてどういう自己実現を考えていくか
- ・入学者選抜で全人格、全学力を見るのには限界がある。この力こそが長野県のこれからの担う人間として必要なものだからこの側面を見る、という論理が重要
- ・「学力の三要素」をバランスよく育て、入学者選抜でどのように適切に評価するか
- ・分かりやすいアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを各校が示し、各学校の公立高校としての特色、独立性を明確にする

(注) ディプロマ・ポリシー (DP) : どのような力を付けて卒業させるのか

カリキュラム・ポリシー (CP) : そのためにどのような教育をするのか

アドミッション・ポリシー (AP) : どのような生徒の入学を望むのか



#### 【論点】

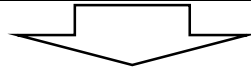
- (1) 長野県として育てたい力「新たな社会を創造する力」を正しく評価する
- (2) 「学力の三要素」や生徒のもつ多様な能力を適切に評価する
- (3) 各学校の特色に応じた入学者選抜を行う

## 2 入学者選抜の方法

### (1) 選抜の種類

#### 【選抜の種類に係る意見等】

- ・ペーパーテストで測れる学力と、個性の多面性・多様性を評価するという2種類の仕組みを用意する
- ・いろいろなところで優れているものを評価するためには複数のものさしが必要
- ・一律に測定すべき要素と個々別々に見ていく要素を盛り込むか、入試制度なのである意味割り切った部分だけを特化するか
- ・学力検査のみではなく、意欲を見る場が必要。テストでは伸び悩むが意欲強い生徒は、高校が求める募集の観点と合致している場合に前期選抜を勧めている
- ・機会（2回）と多様な尺度（2種類）を担保する必要性あり
- ・いろいろな眼で見るということが大事
- ・学力検査と調査書の評定だけでなく、学力の三要素をしっかりと評価できるものである必要がある
- ・調査書により中学校時代の取組を見ることができるようになれば、主体的に学びに向かう態度とか、面接で聞ききれない部分とか、ある程度判断できるのではないか
- ・調査書の記載内容も含めて面接で質問できるようにするのか、あるいは記載内容自体も評価の対象にするのか



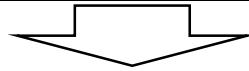
#### 【論点】

- ① 複数の尺度の検査が必要か
- ② 「学力の三要素」をどのように適切に評価するか
  - 「基礎的・基本的な知識・技能」を評価する方法
  - 「課題を解決するための思考力・判断力・表現力など」を評価する方法
  - 「主体的に学習に取り組む態度」を評価する方法

(2) 学力検査やその他の検査を課す対象者

**【必要な検査に係る意見等】**

- ・前期選抜は学力検査を受けないことにより一番伸びる大事な時期に学ばないなどのデメリットがある
- ・全体の3割強の前期選抜入学生の学力実態把握の問題と学力低下の懸念がある
- ・前期で第一志望不合格の場合、学力面の準備不足だと後期選抜の志願先に大きく影響
- ・前期選抜での入学者が学力の伸び悩みや、授業についていくのに大変という声もあり、前期選抜に学力検査的なものがあればギャップを感じないのではないか
- ・どこの学校でも後期選抜で面接を取り入れると学力以外の要素も測れる。集団面接も良い。中高の現場の先生は大変なので、一回の中で面接も学力検査もあるという中で、多様性もみる方向も一つの方法か



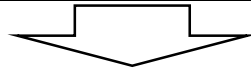
**【論点】**

- ① 学力検査を全員に課すか
- ② 学力検査以外の検査を全員に課すか

### (3) 生徒のもつ多様な能力の評価

#### 【多様な能力の評価に係る意見等】

- ・前期選抜は、多様な力や要素を評価できる機会であるというメリットがある
- ・前期選抜の導入は、様々な尺度で中学生の持つものを測ることができるということがその意味だったが、28校の普通科では、前期選抜を止めたことにより、その意味は失われた
- ・前期で意欲高い生徒を取りたいという専門高校では、もっと取りたいと思う学校がある
- ・前期選抜に関しては、現状のまま、あるいは現状を改善する程度で良いと考えている学校もある
- ・新学習指導要領で重視される協働的な学びや学びに向かう意欲などが、募集の観点にどのように反映されるかが重要である
- ・特色化という面では、学力検査を250点にし、小論文の比率を高めるなどの方法もある



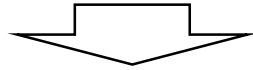
#### 【論点】

- ① 生徒のもつ多様な能力をどのように評価するか
- ② 全ての学校で個別の選抜を実施するか

#### (4) 多様な能力の評価基準

##### 【多様な能力の評価基準に係る意見等】

- ・募集の観点は大学のアドミッション・ポリシーに相当。コミュニケーション能力や表現力、人の気持ちをつかむ力など、質的評価が重要
- ・募集の観点に対する県としての共通の理念を基に各校が特色化すべき
- ・合否の判定基準が曖昧、合否判定への納得が得にくいとの声を受け、募集の観点の明確化や評価方法の具体化・明確化を進めてきている
- ・学力検査のない前期選抜で生徒の個性を多面的に評価することに対し、評価の客観性や妥当性を問題にする見方もある



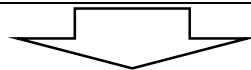
##### 【論点】

- ① 生徒のもつ多様な能力について、何を基準にして評価するか

### 3 入学者選抜の実施時期・実施期間、受検機会の複数化

#### 【実施時期・実施期間、受検機会の複数化に係る意見等】

- ・前期選抜合格者と後期選抜受検者が混在することで指導上の困難さがある
- ・前期合格者は緊張感がなくなり3年生の指導、学力の伸長に関し困難さや課題がある
- ・高3生への大学入試前期の指導を十分にするため、選抜事務の負担への考慮が必要
- ・前期受検者は早く決めたいという深層心理はあるかもしれないが、中学校側としては、本当に行きたいところを考えることを大事にして進路指導をしている
- ・前期選抜は、早く決まることにより安心感が得られるというメリットがある
- ・安全志向や早い段階で進学先を決めたいという心理により、前期選抜を実施する公立高校や私立高校、県外高校に進学する者あるいは私立高校との併願者が増加
- ・倍率の高い28校の普通科が前期選抜を廃止したことで、現場の負担は減ったが、公立高校の受験チャンスが1回になり、私立との併願が増えたり、他県に出たりということにつながっている
- ・前期の良さや後期の良さを融合し、負担を少なくし、期日は一本化の方向で。どちらにもエントリー可能。募集枠は限定しない方がよい
- ・実施時期は別として、複数の機会を
- ・人生初めての進路選択なので2つのチャンスを
- ・受検機会の複数化を担保するなら前期・後期が必要。メリットは2回だが学力の担保は疑問、負担も多い。一回で多様化と同時に実施した場合、複数の機会という認識ない
- ・生徒にとっては人生がかかっているが、選抜業務に携わる中学校、高等学校の職場においてどう取り組んでいくか、理想ばかりでなく実現可能なものとする必要性がある



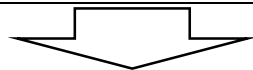
#### 【論点】

- (1) それぞれの選抜をいつ実施するか

#### 4 学力検査問題の内容

##### 【学力検査問題の内容に係る意見等】

- ・学力検査問題の内容は、学力の三要素のうち、知識・技能の部分と、思考力・判断力・表現力等の部分、それをバランスよく評価できる問題が望ましい問題
- ・図表とか文字とか数字のような異なる情報源を複雑に絡み合せて、ある課題を解決していくという、情報処理能力をどのよう伸ばし、それをどう入試で測るか
- ・学力検査に加えて、冒頭に自己PR文を書かせてみてはどうか
- ・点数的に厳しい生徒も高校で学びたいという意欲、願いがあるので、基礎力を確認する問題を増やすなど、様々な生徒の願いが実現する制度を考える必要がある
- ・応用・活用的な問題が増え、基礎のみ学習する子ども、応用まで学習する子ども、というように小中高の子ども達と先生達の学力に対する考え方が分かれなことが重要
- ・論述問題の大学入試への導入により、そのためだけに勉強するのではなく、小学校から文章を書く、表現するのが大事だという考えを小中の先生が持つ必要がある
- ・どの子にも学びのチャンスを与えてもらいたい。応用力（進学校）は全国学テのB問題のような問題を選択、基礎学力を見たい学校はA問題を、高校側で選択してみてはどうか



##### 【論点】

- (1) 学力検査問題の内容をどうするか

## 5 選抜業務

### 【選抜業務に係る意見等】

- ・ 大学入試の前期と重なり、高校の先生が選抜業務に追われ高3生への指導が十分でなくなる懸念があるので、選抜事務の負担への考慮が必要である
- ・ 選抜業務にどう取り組むか。理想ばかりでなく実現可能なものとする必要性がある
- ・ 選抜業務が長期に渡り、中高の現場での負担感が大きい
- ・ 志願理由書など提出書類が多く、作成に多くの労力を要している
- ・ 前期選抜と後期選抜については高校の先生方の忙しさが心配。新しい大学入試に対応しなければいけない上に、後期の問題は良問だが現場の先生方の仕事量はとても大変



### 【論点】

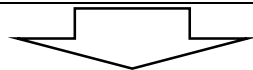
- (1) 選抜事務の長期化に伴う中高の在校生への影響を減らすにはどうするか
- (2) 職員の負担を減らすにはどうするか



## 6 通学区制

### 【通学区制に係る意見等】

- ・ 受検機会の均等性をどう図っていくか。学区制を一元化するのか、現状のものを規制緩和するか、弊害が多いので、ある程度の縛りを設けるのか
- ・ 通学区制廃止は、メリットとして受検機会の公平性の担保、デメリットとして交通の便の差により志願者数の増減にかなりの差がでてくる懸念がある
- ・ 旧 12 通学区から 4 通学区になったことにより、力のある生徒にとっては選択肢が広がったが、よりハードルが上がる生徒がいる側面があるという課題を感じている
- ・ 高校現場では通学区制の一本化には反対。苦勞するのは、距離、定期代の負担が増す遠くの学校に通わなければならない生徒。現状のままで良いというのが現場の思い
- ・ 志望校の判断基準は、進路希望の実現が基本だが、通いやすさということが感じられる
- ・ 県外への進学者は、部活動や将来の職業を目的としているケースが多い。山梨県の公立高校へは、進学目的で 7 区を中心に多くの生徒が流出している。通学時間が県内公立高校と比較して大差ない場合もある
- ・ 県外への流出者数は約 420 人、県外からの流入者数は約 250 人



### 【論点】

- (1) 現状の 4 通学区制をどうするか